第403回（573回）　〈読書会〉例会資料　今月の音楽

2024年2月24日（土）午後2時―4時　作成：清原章夫

曲目　ジャン＝フィリップ・ラモー（1683年・1764年）「ガヴォットと6つの変奏」
『新クラヴサン組曲集 第1番(第4組曲)』第7曲

(1)場面　「グルックや交響曲シンフォニーの創造者たちや歌曲リードの大家たちなどの旋律的楽句は、ヨハン・セバスチアン・バッハやラモーなどの精緻なあるいは巧妙な楽句に比べると、時として平凡な市井的なものと思われることがある。けれどそういう地質こそ、偉大なる古典派らの味わいや広い名声を作り出したのだ。」（第八巻　女友達 岩波文庫第3巻449頁18行～450頁1行）

(2)曲目解説　ラモーは、フランスバロック最大にして最高の作曲家であり、音楽におけるハーモニーの重要性は、まさにラモーによって見出されたといっても過言ではない。ラモーは、ハーモニーに宇宙の秩序と神秘を見出し、その世界を追い求めて数々の曲を生み出した。ラモーが残した『クラヴサン曲集』や数々のオペラは、ベルリオーズやドビュッシーといった後年の作曲家たちに大きな影響を与え、さらに近年では、その作品群が新たに見直されつつある。

『新クラヴサン組曲集 第1番』は全部で7曲から成り、その7曲目が今回紹介した「ガヴォットと6つの変奏」である。はじめにガヴォット（舞曲）のメロディが提示され、続いてそのメロディをアレンジした変奏が6種類演奏される。メロディの形は残しつつもバリエーション豊かなアレンジが施されており、ラストの変奏曲は特に劇的である。

このガヴォット、ピアノで演奏されているものも多いが、やはりバロック音楽といえばハープシコード（チェンバロ）なので、今回はハープシコード（チェンバロ）の演奏でお届けする。

(3)演奏　Catherine Latzarus：ハープシコード（演奏時間：7分33秒）